



ホームページでも
S・A・Iを
掲載しています

埼玉県社協
マスコット
「シャキたまくん」



つながりをチカラに



作品名 「ひまわり〜母へ」 作者 尾ヶ井 保秋さん（社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センター所属）



巻頭インタビュー

勝手に決めつけないで
ぼくたちの思いをよく聞いてください！
～ 障害当事者としてメッセージを発信 ～

社会福祉法人清心会 アンバサダー

堀口 旬一郎 さん

幼い頃から施設で生活している尾ヶ井保秋さんは手足が不自由で、言葉を自由に話せない。指導員の助けを借りながら器用に絵筆を手につけ、キャンバスに思いや感情を打ち付けるように描く。二輪のひまわりは、正面を向き、左が自分で、右は9歳の時に死別した母だそう。二輪はぴったりと寄り添っている。繰り返される赤は、母への思い入れや保秋さんの温かくも情熱的な人柄であると共に、絵を描くことが好きだという愛を感じる。

全体のレビューは
こちら



埼玉県障害者アート
オンライン美術館

勝手に決めつけないで

ぼくたちの思いをよく聞いてください！

障害当事者としてメッセージを発信

障害当事者の堀口旬一朗さんは、講演活動に力を入れ心に響くメッセージを発信しています。また、ダンスや演劇の表現活動にも挑戦し続けています。今回は堀口さんのこれまでの活動や思いについて伺いました。併せて堀口さんを25年以上にわたり支援し続けてきた、社会福祉法人清心会理事長の岡部浩之さんにも「通訳（※1）」としてお話しいただきました。

堀口さんの日々の活動についてお話しただけですか。

堀口 清心会のアンバサダーとして法人の広報や宣伝の活動をしています。毎日の仕事は、パンやラスクを作って販売することです。「旬なコッペ」（旬一朗の「旬」と季節の「旬」を掛け合わせたコッペパン）は人気があって、「おいしかったよ」とよく言われます。また、近くに小学校があるので、下校時にはこどもたちの見守り活動に参加しています。

また、毎日1時間、グループホームで食事を運んだり、食器を洗う仕事もしたりしています。おじいちゃん、おばあちゃんが大好きで人をお世話するのも好きなので、頑張ってヘルパー資格も取りました。

岡部 「資格を取りたい」という旬一朗さんの夢

の実現を、法人としてもサポートしようと考え、週3回、職員がつきつきりで予習復習を行いました。当時、ヘルパー2級の資格取得には130時間の受講が必要でしたが、旬一朗さんは倍の260時間かけて根気強く勉強を続け、見事に合格しました。

これまで100回以上、講演活動を積み重ねられています。きつかけを教えてください。

岡部 講演活動は、旬一朗さんにとって大きな転機となった取り組みのひとつです。十数年前に東京大学から講演依頼があり、初めて大勢の聴衆の前で講演したときのことですが、旬一朗さんが話し出すと一転して視線が集まり、ドッと笑い声が起こったり、すすり泣きが聞こえたりしました。そして最後には割れんばかりのスタンディングオベーションが起きたのです。

社会福祉法人清心会 アンバサダー

ほりぐち しゅんいちろう
堀口 旬一朗さん

1983年生まれ。秩父市出身。ダウン症・知的障害。現在、多機能型事業所さやかワークセンターに所属し、パンやラスクの製造販売に従事。2009年より障害者ダンスパフォーマンスチーム「ハンドルズ」のメンバーとして活動。2012年に東京大学「市民後見人養成講座」で講演したことを契機に講演活動をスタート。2023年より「東京演劇集団 風」の研修生として活動。ホームヘルパー2級資格を保有。2024年「第10回糸賀一雄記念未来賞」受賞。



そこで「旬」一朗さんの言葉には人の心に響くものがあり、伝える能力が高い。これは彼の強みだ」と思い、講演活動に力を入れるようになったのです。

当初は「障害を乗り越えて、真面目に頑張るダウン症の青年」と紹介されることが多かったのですが、彼のなかに「障害に打ち克つ」といった思いは一切ありません。いろいろなことにチャレンジしています。それは一人の青年としての普通の行為であり、普通の思いを述べただけなのです。

堀口 講演で多くの話を聞いて、ぼくたちの味方になってくれた人が増えたことはとてもうれしかったです。講演を終えた後お客さんから「旬ちゃんが一生懸命、みんなの前でお話すること、仲間たちがつもつと暮らしやすくなったり、働きやすくなったりするんだよー」と言ってもらいました。

もう一つの転機が、ダンスと演劇という舞台芸術での活躍ですね。

岡部 もともと人前でパフォーマンスすることは



(上) 法人理事長の岡部浩之さんと地元
のちびF Mにも出演

(下) 持ち前のユニークなアクションで
観客を魅了

得意でしたが、二人の演出家との出会いによって、人真似ではない、旬一朗さん独自の表現が確立されました。一人は「コンドルズ」というダンスチームを主宰されている近藤良平さんです。旬一朗さんが参加している障害者のダンスチーム「ハンドルズ」の演出も担当されています。もう一人は「東京演劇集団 風」の芸術監督、浅野佳成さんです。

私たちにはもう十分だと思える演技についても、お二人は「旬、もっと大きく、思い切り!」と、よりスケールを大きくするような声掛けをされます。その結果、旬一朗さんのなかに眠っていた可能性がどんどん引き出されて開花していきま

した。先日、旬一朗さんの演技を見たダウン症の少年が感激して「大きくなったら、旬一朗さんみたいになりたい」と話したと、少年のお母さんがうれしそうに教えてくれました。

堀口さんは家族をとっても大切にされていると伺いました。

堀口 はい。お父さん、お母さんと姉弟がいます。家族はぼくにとって「絆」であり、一番大切です。昨年、糸賀一雄記念未来賞(※2)を受賞したとき、ぼく自身、うれしかったのですが、家族が喜んでくれたことが、もっともつとうれしかったです。お母さんはうれし涙を流してくれました。

岡部 旬一朗さんはご家族に深く愛されて育ってきたので、家族愛にあふれています。旬一朗さんの実家は市内で有名な中華料理店を営んでおり、こどもの頃から接客も含めて、お店の手伝いをしてきました。そのような育ち方をしたからこそ、

講演や舞台芸術など、大観衆の前ですばらしいパフォーマンスを披露できるのではないのでしょうか。全ての活動は、「家族のために」というキーワードに帰結すると思います。

最後に読者の皆さんに向けてメッセージをいただけますか。

堀口 皆さんにお願いがあります。ぼくたちの思いを、よく聞いてください。勝手に決めつけないでください。うまくしゃべれないかもしれないけど、よく聞いてくれる、分ってもらえることがたくさんあると思います。

そして、皆さん、ぼくたちの通訳になってください。ぼくたちには、やりたいことや、お話ししたいことがたくさんあるのです。夢や希望、チャレンジする勇氣も、いっぱいあるのです。

ぼくたちのことを通訳してくれる人がたくさんいれば、ぼくたちは、もっともつといろいろなことができると思います。もっともつといろいろなことにチャレンジしたいのです。

時間がかかるかもしれないけど、ゆっくりかもしれないけど、それでも最後まで自分の力でやりたいのです。その機会を奪わないでください。どうか、ぼくたちの思いを分ってください。味方になって応援してください。

これから全国の仲間たちと一緒に、楽しいことや面白いこと、笑顔になれることをたくさんやっていきたいと思っています。

※1 通訳 障害を理解し当事者を応援してくれるサポートターの意

※2 糸賀一雄記念未来賞 障害福祉分野で今後一層の活躍が期待される人に贈られる賞

さまざまな団体の
キラリとした活動を紹介

ボランティア活動を通して 地域とつながる高校生のチカラ

おおぞら高校川越キャンパス

学校法人KTC学園屋久島おおぞら高等学校（広域通信制・単位制、校長 茂木健一郎）とおおぞら高等学院（サポート校、学院長 小林英仁）からなるおおぞら高校は、サポート校が全国49カ所にあります。今回紹介する「おおぞら高校川越キャンパス」は、ボランティア活動が盛んで、川越市社会福祉協議会（以下、川越市社協）とつながりながら、活動の幅を広げています。



「おおぞらサロン」を企画した生徒の皆さんが、地域の人たちと一緒に「まるごとつながるポーズ！」

川越駅近くにある「おおぞら高校川越キャンパス」は、約500人が在籍しています。が、5年ほど前からボランティア活動に力を入れていきます。その理由について、「おおぞら高校は『なりたい大人になるための学校』と謳っています。そのためにはロールモデル（考え方や行動の手本）となってくれる、いろいろな大人と出会うことが重要だと考えています。そこで地域に出かけてボランティア活動に取り組んでみることにしました」と同校の平野千恵コーチ（※）は話します。

活動については、川越市社協に相談し、「夏のボランティア体験プログラム」を紹介して

もらいました。翌年以降も、

高齢者福祉施設での見守りや、こども食堂の手伝い、街頭募金活動など、多彩な活動に、多くの生徒が参加しました。

2023年には川越市社協と、「地域福祉活動に関する包括連携協定」を締結。ボランティア学習や福祉体験学習に関するさまざまな活動を相互に計画して実施しています。

「ボランティア同好会」の会員が100人を超えて活発化！

当初はほとんどの生徒が「福祉は自分には関係ないこと」と考えていました。そこで平野コーチは、「⑤だんの④らしの①あわせ③③③③」という言葉を挙げて「あなた

も福祉に含まれているのよ」「あなたが幸せになればそれも福祉だよ」と話して、生徒たちが「福祉は身近なこと」と感じられるようなレッスンを行いました。

福祉に興味をもった生徒は「ボランティア同好会」に入会して、さらに活動の幅を広げていきます。例えば

「能登半島復興支援プロジェクト」は、市内

の企業から協賛金を募り、そのお金で能登半島の特産品を仕入れ、生徒たちが販売し、売上金を全額、復興支援のために寄付するという活動です。

また「障害のある人や高齢者など多様な人と知り合う機会をつくるため、学校のキャンパスを開放して、誰もが参加できる『おおぞらサロン』を立ち上げたい」という企画が現在進行中だといいます。

実は生徒のなかには人との関わりが苦手だったり、自己肯定感の低さが見られたりしましたが、ボランティア先で「あなたがいてくれてよかった」「ありがとう」と言われることで、自信を取り戻し自己肯定感が向上したケースが多



「能登半島復興支援プロジェクト」では、能登の特産品などを販売する活動を通して、地域の方に被災地の現状を伝えることができました。

く見受けられました。「10代の多感な若者は吸収力も高く、ボランティアを通して大きく成長します」と平野コーチは話します。

ボランティア活動の魅力を実感した生徒たちが仲間と一緒に「一緒にやろうよ」と声を掛けることで、「ボランティア同好会」の会員数は、今では100人を超えました。また、生徒が企画して準備を整え、地域の人たちとつながりながら活動するなど活動内容にも進化が見られ、今後の展開が注目されます。

※同校では、従来の先生の立場を再定義し、フラットな関係性から、ティーチングだけではなくコーチングを行う「マイコーチ」と呼ぶ。

活動においての
想いを聞きました！

福祉の魅力・やりがいを
言葉にすると？



おおぞら高校 川越キャンパス

コーチ 地域連携・ボランティア担当

ひらの ちえ
平野 千恵さん

Q1 この言葉を選んだ理由を
教えてください。



つらい経験をして、誰かに助けてもらった経験があると、自分も誰かのために何かしてあげたいという気持ちになります。つらいときは、自己肯定感が低いのですが、「救う人」になったとき、「私も社会の中で生きていていいんだ」と気づくことができます。それはまさに福祉の魅力だと思います。

Q3 地域の方々にメッセージを
お願いします。



人は誰でも変わることができます。一歩踏み出す勇気がなかったら、半歩でも、つま先だけでもいいので前に踏み出してください。きっと何十倍にもなっていて、あなたの成長として返ってくると思います。

Q2 悩める10代の若者に
メッセージをお願いします。



信頼関係を築いています。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償！！

令和7年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	
		基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円
		外来の手術	32,500円
	通院保険金日額	4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も左記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

介護現場で受入れが進む
外国人介護職員の現状（その2）最終回

埼玉県福祉部 高齢者福祉課

[illegible]

前回は、外国人介護職員の在留資格や受入れ状況について、取り上げました。

今回は、県内の状況を踏まえ、受入れと定着に必要な準備やメリット、新規施策の展開について紹介します。

受入れ（採用）と定着に必要な準備

外国人を採用するに当たって「どのような準備をしたら良いかわからない」という声が聞かれます。基本的には日本人の職員と同じサポートになりますが、宗教観や食生活の違いなど、外国人特有の文化の理解が必要になります。受入れに当たっては、生活環境の整備、異文化理解の促進、教育体制の充実がポイントになります。このことが、外国人介護人材の安定就労に繋がっていくと考えられます。

1 生活環境の整備	・住まいの確保（借上げ住宅） ・通勤距離（通勤手段の確保） ・買い物の利便性の確保 ・Wi-Fi環境の整備 ・里帰り休暇の創設 など
2 異文化理解の促進	・宗教儀式の受容 ・他者との距離感 ・家族との関係性 ・食生活 など
3 教育体制の充実	・日本語教育 ・日本語レベルに合わせた「やさしい日本語」 ・業務スキル ・段階的なスキルアップ など

外国人を採用するメリットは？

令和6年度に県が行ったアンケートによると、外国人を採用している事業所のうち、79%が「外国人介護人材を雇用したことで職場に良い影響があった」と回答しています。その内容として、「不足している労働力が確保できた」(30%)、「職場に活気が出た」(18%)、「日本人職員の再教育のきっかけになった」(16%)等が挙げられています。

一方、外国人介護職員を採用する課題として、施設が負担する費用や、職員同士や利用者とのコミュニケーションを挙げる意見もありました。

また、現状では東南アジア諸国からの受入れが大部分を占めており、これらの国々は家族介護が中心で、高齢者を敬う文化が根強いと言われています。真面目に働き、温厚な性格の人が多いことから、日本の介護現場で彼らの良さが発揮されやすいといえそうです。

県内の介護施設で働く外国人職員の声

- ・日本のアニメが好きで、日本に憧れの気持ちがありました
- ・日本で働く理由は、家族に仕送りができるからです

- ・日本語の勉強もがんばって介護福祉士を取得するために頑張ります
- ・就職した施設では、職員の皆さんが仕事を優しく教えてくださいます

埼玉県の新規施策の展開

県では、国内外の外国人介護人材を本県に呼び込むため、令和7年度新たに、県社会福祉協議会内に「介護のみらいサポートセンター」を開設し、県内事業所の外国人採用に関する支援を行うほか、さまざまな施策を展開しています。

今後も増加が見込まれる外国人介護職員が働きやすい環境を整備し、受入れ施設の取り組みを支援していきます。

1 新規掘り 起こし	・外国人採用未経験施設向けのセミナー ・地域別の巡回セミナーおよび個別相談会 ・登録支援機関等の調査分析を行い県内の介護事業所へ情報提供
2 確保支援	・採用時の紹介料など施設が登録支援機関等へ支払う初期費用の一部を補助
3 定着支援	・資格取得に係る費用の一部を補助 ・日本語学校の学費の一部を補助 ・住宅確保に係る費用の一部を補助
将来に向けて の支援	・将来的な埼玉県への新規人材獲得ルートを開拓

(おわり)

福祉の街・アールスタッフ ネットワーク

福岡県

福祉の街 本社

北部エリア

- ぶくしのまち秩父
- ぶくしのまち熊谷
- デイサービス秩父
- デイサービス熊谷平戸
- ぶくしのまち深谷
- レンタル熊谷

西部エリア

- ぶくしのまち川越
- レンタル川越
- グループホーム緑ヶ岡

南部エリア

- ぶくしのまち上尾
- 看護小規模多機能上尾
- 看護小規模多機能北上尾

東部エリア

- グループホーム大森
- 小規模多機能大森
- ぶくしのまち碓氷
- レンタル碓氷
- ぶくしのまち春日部
- 看護小規模多機能春日部
- ぶくしのまち久喜

アールスタッフ 本社

- 春日部ケアサービス
- 北上尾ケアサービス
- 武蔵ヶ丘ケアサービス
- 浦和ケアサービス
- 大宮ケアサービス
- 大宮中央ケアサービス

上尾さいたまエリア

- ぶくしのまち上尾
- ぶくしのまち大宮
- レンタルさいたま
- ぶくしのまち与野

株式会社 福祉の街 ☎048-645-2943
<https://www.saint-care.com/youism>
 さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル4F

無料カタログ
お送りします

介護のことなら何でもお気軽に
ご相談ください!

快適介護
おまかせ!

高齢者の生活支援
総合カタログ
おまかせ!

福祉用具のレンタル・販売 / 住宅改修

Silver
HOXON シルバーホクソン

通話無料 ローゴ ヨロシク

0120-65-4649 川口市中青木 2-22-34

82

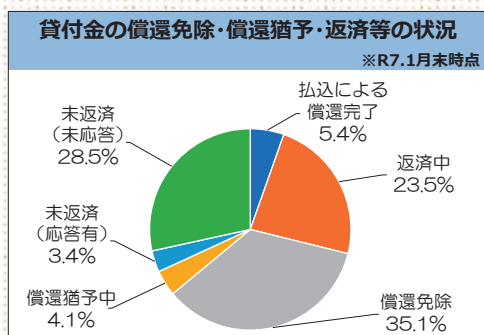


▶ 特例貸付の返済とフォローアップ支援の取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活に困難を抱える低所得世帯等への支援策として、全国で実施された「緊急小口資金等の特例貸付」は、埼玉県内で約22万件、総額890億円を超える貸付が行われました。

現在は、償還計画に基づく借受人からの月々の償還（返済）が行われるとともに、住民税が非課税の場合など、償還免除規定に定められた要件を満たす方々からの免除申請の手続きも行われています。

■ 現在の貸付金の返済状況



本貸付の受付終了から2年以上が経過した現在、償還が始まった債権のうち、約35%が住民税非課税等の要件により償還免除となっています。

一方で、免除には至らないものの、依然として困窮状態にある借受人も多く、本県では、市町村社会福祉協議会が中心となり、償還の猶予措置を講じながら、生活状況に応じた相談など、生活再建に向けた伴走支援を進めています。

さらに、一度も返済がなく免除等の申請もない“未応答”のケースが全体の約28%に達しており、償還免除者、償還困難者、未応答者それぞれについて、フォローアップ支援を継続することが、本会の大きな使命となっています。

■ 今後のフォローアップ支援

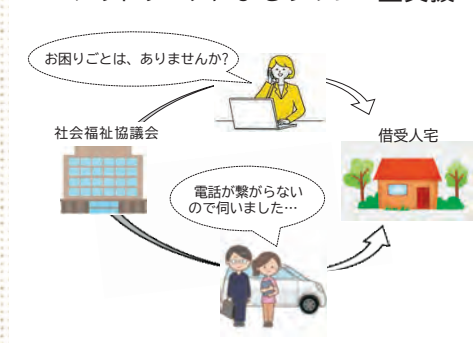
本貸付を利用した方が地域とのつながりを持ち、安心して生活再建に向けた相談ができるよう、今年度は、市町村社会福祉協議会と連携し、県内各所で「生活困りごと相談会」（参加無料）を開催します。返済に関する不安や生活上の悩みごとなど、さまざまな相談に対応できるよう弁護士やファイナンシャルプランナーなどの専門家も同席するほか、一部会場では食料品等の無料配布も併せて実施し、生活支援の一助とします。

困りごと相談会の開催イメージ

- 弁護士やファイナンシャルプランナーなど、専門家による相談
- 食料品等の無料配布（一部会場で実施）



アウトリーチによるプッシュ型支援



また、未応答など、アウトリーチによるプッシュ型支援の必要がある世帯には、社会福祉協議会の職員が電話連絡や戸別訪問を行い、生活状況や困りごとの有無を丁寧に尋ね、本人の求めに応じて必要な支援機関につなぐなど、個別の状況に応じたフォローアップ支援に取り組んでいきます。

資金課・債権管理センター TEL 048-822-1192

「ヤングケアラーの理解を深め支援を考える研修会」を開催します！

ヤングケアラーについて正しく理解し、支援の考え方や気づくポイント、信頼関係の築き方などについて学びます。地域で共に暮らす住民や地域福祉活動者としてできる支援と一緒に考えましょう。 ※同封のチラシを参照

- 内 容：基礎講座、地域福祉活動者の支援事例、元ヤングケアラーの体験談、グループワーク
- 対象者：ヤングケアラー支援に関心のある方はどなたでも
- 期日・会場：①10月 7日(火) 彩の国すこやかプラザ(さいたま市)

- ②10月24日(金) ふれあいキューブ(春日部市)
- ③11月21日(金) 熊谷地方庁舎(熊谷市)
- ④12月 8日(月) ウェスタ川越(川越市)

※同じ内容を4会場で実施。各日程開催5日前、定員に達するまで受け付けます。

- 講 師：田中 悠美子 氏(一般社団法人ケアラーワークス 代表理事)
上原 美子 氏(埼玉県立大学 保健医療福祉学部 教授)

今年度は新たに、こども食堂での支援事例をお話いただけます！
グループワークでは、実際にこどもたちに接する場面を想定したロールプレイで、具体的な対応を学びます。

令和6年度の参加者からは
「ヤングケアラーの定義や関わる上で大切なことが学べました」
「実際にヤングケアラー当事者の話を具体的に聞くことで支援のヒントになりました」
「立場の違う方と意見交換することで、新しい視点や情報を得ることができました」
など好評をいただきました。



令和6年度さいたま市会場の様子

さまざまな活動者の方々と一緒に学べる機会です。
ご参加お待ちしております！



▲お申し込みはこちらから



▲詳細はこちらから

地域連携課 TEL 048-822-1248(埼玉県福祉部地域包括ケア課 委託事業)

赤い羽根だより

ありがとうの声が届いています

皆さまからご協力いただいた募金は、県内で実施する福祉活動や社会福祉施設に必要な備品類の購入費用などに活用されています。助成を受けた団体から届いた“ありがとうメッセージ”を紹介します。



特定非営利活動法人羽生の杜(羽生市) フードパントリー事業

ひとり親家庭の保護者にとって、夏休みなど長期休暇のこどもたちへの昼食の準備は、経済的、時間的、肉体的な負担となります。少しでも負担を解消すべく、この期間のパントリーやお弁当の充実を重点的に図りました。夏休みに楽しく遊べるイベントも開催し、栄養やボリュームがたっぷりの昼食も楽しんでもらい、喜ばれました。ありがとうございました。



社会福祉法人誠由会 デイサービスハピネス狭山(狭山市) 送迎用リフト付車両購入

従来使用していた車両は、購入から16年が経過し、乗車用ステップやエアコンの不調など、故障が多く利用者の送迎に支障をきたしていました。

皆さまのご支援により、新しい車両に買い替えることができ、毎日の送迎では利用者に不便をかけることなく、快適で安心安全な運行を行えています。今後も大切に使用していきます。ありがとうございました。



共同募金会では、10月31日(金)まで、令和7年度後期助成要望事業を募集しています。

詳細は、本会ホームページ内「助成を受けたい」ページをご覧ください。ご不明な点は、お気軽にお問い合わせください。



社会福祉法人埼玉県共同募金会 年間を通して助成要望を受け付けています。

〒330-0075 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ内
TEL 048-822-4045 FAX 048-824-9819

赤い羽根さいたま 検索

ネット募金
受け付け中!

